



世界遺産への登録をめざす

武家の古都・鎌倉 ニュース

Vol. 14

冬号/Winter 2010

第14号 平成22年(2010年)1月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会 編集人：内海恒雄

◆ 世界遺産登録の早期実現に向けて ◆

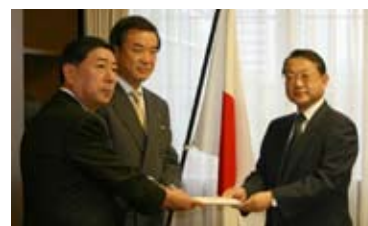
文化庁へ「ユネスコへの推薦」を要請

平成21年10月5日(月)、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録に向けて、神奈川県、横浜市、鎌倉市、逗子市の4県市の首長連名によるユネスコへの推薦要請書が、文化庁長官へ提出されました。

これまで4県市では登録に向けた準備が進められてきました。平成18年には、市民と行政との協働で世界遺産登録をめざす推進協議会が設立され、市民サイドからの登録に向けた取り組みも活発化しています。

推薦要請を受けた玉井文化庁長官は、「今回の要請

はしっかりと受け止めていただきました。登録の審査は年々厳しい状況にありますが、知恵を出し合って一緒に取り組みを進めていきたいと思います」と積極的な取り組みへの意欲を示されました。



玉井長官(右)へ要請書を提出する
松沢知事(中央)と石渡前鎌倉市長(左)

< 推薦要請書 > 「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の早期実現に向けた取り組みの推進について

鎌倉は、12世紀後半に武家がはじめて国政を担い、その独特な地形を活かしながら、独自の「文化」や「風土」を築き上げた地です。この鎌倉で生みだされた「武家文化」は、日本文化の一つの基層を成し、現在の日本人にも脈々と受け継がれています。

この鎌倉の伝統や文化・歴史的風土は、数々の戦乱や開発圧力にも屈することなく、現在まで良好な状態で守られており、このことは、歴史的な建造物や遺跡で構成される「武家の古都・鎌倉」の資産が、明確に示しています。

鎌倉の世界遺産登録に向けては、平成4年に「古都鎌倉の寺院・神社ほか」として、ユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載されて以来、国と、神奈川県、横浜市、鎌倉市、逗子市が連携し、文化遺産の整備や史跡指定など、登録に向けた準備を着実に進めてまいりました。

また、昨今の審査の厳格化に対応するため、文化庁と4県市との共催により、世界遺産登録に向けた国際的な評価の形成を目的とした国際会議を2度開催し、国内外の専門家の方々から、「鎌倉には、世界遺産に登録される可能性が十分にある」との評価を得たところです。

一方で、世界遺産登録を、より確実なものとするには「武家文化をより分かりやすく説明するとともに、その形成に重要な役割を果たしてきた山梨部を積極的に評価する必要がある」といった、課題が指摘されたところです。

そこで、国におかれては、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の早期、かつ確実な実現に向けてさらに4県市との連携を深めつつ、国際会議等で提起された課題の解決を含めて、新たに設置する「推薦書」作成のための委員会に参画し、ユネスコ世界遺産委員会に提出する「推薦書」を仕上げていくための作業を、国と4県市が協働して進めるなどの取組を推進していただくよう要請します。

文化庁長官 玉井日出夫 様

平成21年10月5日

神奈川県知事 松沢成文(公印)

横浜市長

林文子(公印)

鎌倉市長 石渡徳一(公印)

逗子市長

平井竜一(公印)

訃報：推進協議会特別顧問・平山郁夫画伯が逝去されました

平山先生は、世界文化遺産の保護のための国際的な活動に尽力されるとともに、鎌倉の世界遺産登録のために、平成20年5月より推進協議会特別顧問にご就任くださり、大きな力を注いでくださっているところでした。

突然の訃報に、推進協議会としても痛恨の極みです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◆ 第3回 ワークショップ 開催報告 ◆

「どう守る 私たちの世界遺産」

ワークショップ（以下「WS」）は、市役所講堂で、平成 21 年 11 月 8 日に、推進協議会と「鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会」の共催で開かれました。「鎌倉の価値や魅力を語り合い、それを守っていく方法を一緒に考えよう」「世界遺産候補地を次世代にどう守り伝えられるか、各候補資産の性格別や地域別のグループに分かれ、話し合い、皆がどのような認識をもち、有効な手立て等が見つかるかを探ろう」という趣旨でした。



ワークショップ風景。今回は市役所第3分庁舎の講堂で行われた。

はじめに総括進行役から時間配分などの説明の後、「鎌倉のような重層的な歴史都市を見る際に、時代別のレイヤー(layer:置き敷かれた層・分布)を想い浮かべ、それらを重ね合わせて街を理解する方法が有効」という考えが披露されました。

次にコメンテーターの東大准教授の赤川学さん、産経新聞の宮田一雄さん、地域プランナーの伊達美徳さんらが、討議に向けて役立ちそうなヒントなどを話しました。テーブル討議の前半では遺産の特質や問題を洗い出し、後半は遺産を守るための意見や提案を出してもらう、というのが主催者側の狙いでしたが、初めての参加者も多く、話は度々鎌倉の世界遺産登録の意味や可能性に移りました。

「禅宗大寺院とその周辺」「社寺とその参道」「遺跡と周辺環境」の3テーブルと、「二階堂辺」「長谷・極楽寺の辺」「扇ガ谷辺」の3テーブル、計6つのテーブルで話し合いが行われました。

個々の遺産より地域のことや鎌倉全般にわたる議論の多かったテーブル、WSの趣旨に応えようと話が進んだテーブル、遺産の性格を武家文化発祥に結び付け、また今の時代の対応を見極めようとしたテーブル、知ること・学ぶことにこだわって話が進んだテーブル、遺跡という人それぞれで受取り方が違う対象に、その考え方を見出そうとしたテーブル、典型的な対象に的をしばり答を探究したテーブル、それぞれが面白いほどの個性・独自性を示し、それらの全てが合わさり見事に鎌倉の世界遺産登録の今の状況をクローズアップしてくれました。

コメンテーターの宮田さんは、世界遺産登録に対する攻めの精神の必要、鎌倉のまちとしての面的な魅力



などを語り、赤川さんは人々の交流やもてなしの心が大事と話されました。伊達さんはWSの議論に、登録するための世界遺産手続き論と、歴史都市鎌倉のまちづくりをまず考える世界遺産手段論とがあることを指摘、「登録はユネスコの望むようにしなければならないが、世界遺産を手段に良い町を作ろうとするのもうまい智慧」と話しました。

●各テーブルの進行役報告から(抜粋)

「もっと知りたい鎌倉、私たちの足元に積み重なっているレイヤーに気づき、歩いて感じてもらう」(田川陽子)、「遺産を守り継いでいく地域の〈守り人〉が必要。遺産と周辺、何を誰が、どの範囲でどう守っていきたいか、話せる場が必要」(山村みや子)、「もてなしのあるよい街づくりを、市民の理解のもとに、行政が主導し実施する」(草場圭三)、「住みたいと思うだけでなく地域の人とつながりができて、地域を知り地域を愛することにつながっていく。その上でお客様を迎える意識が芽生えてくる」(横川啓)、「点としての遺跡を、鎌倉物語として線につなぎ、面にして町にして首都圏の中の鎌倉の価値を考えてみたい」(高木規矩郎)、「鎌倉の市街地の遺産は皆、同様の問題点があるように思われる」(大竹正芳)など、充実した話し合いの場が実現したことを、うかがわせる言葉が並びました。

WS報告書は事務局(8P参照)で配布しています。